

## 「NPT（核不拡散条約再検討会議ニューヨーク行動）」

### ～名護市長メッセージ～

世界中からご参集されました平和を愛し、行動する多くの皆様に、敬意を表します。

今年は、人類史上初めて核兵器が使用されてから 70 年という節目の年を迎えます。唯一の被爆国である日本は、広島で約 16.6 万人以上、長崎で約 7.4 万人以上の方が核兵器によって命を奪われました。そして、私の暮らす沖縄においては、激しい地上戦の結果、約 20 万人の尊い命が奪われました。

そして、戦後から今日に至るまで日本の国土面積の 0.6%に過ぎない沖縄に、在日米軍専用施設の約 74%が集中しており、基地から派生する航空機騒音や環境破壊、また米軍人等による事件・事故に沖縄県民は苦しんでおります。

このような状況の中、日米両政府は世界で一番危険な飛行場と呼ばれている沖縄県宜野湾市にある米軍普天間飛行場の代替施設を、同じ沖縄県の名護市の辺野古崎に建設しようとしています。名護市民はもとより沖縄県民もこの新たな軍事基地の建設に反対しております。

新たな軍事基地は 100 年以上も使用可能な施設です。これはもう今を生きる我々だけの問題ではなく、未来を生きる我々の子や孫、その次の世代まで被害や負担を背負う問題ということです。そのことを思うと、親として今を生きる人間としてとても耐えられるものではありません。

私には夢があります。いつの日か沖縄県民の望む形でこの問題が解決し、当然享受すべき輝かしい未来が私たちの子や孫たちに訪れるというものです。世界のなかの日本、日本のなかの沖縄における問題は、世界的な視点からすると小さなことかもしれませんが、私はその小さな沖縄からでも大きな世界を変えることができると信じています。

結びに、平和を愛し行動する皆様方のご活躍とご健勝を心より祈願申し上げ、私からのメッセージとさせていただきます。

日本国沖縄県名護市

市長 稲嶺進